

社団法人日本自閉症協会
奈良県支部ニュース

いとしご増刊

きずな 絆

第86号 4月号
発行2005年 4月10日



購読料1部 100円

会員は会費に含まれています。

発行人：社団法人日本自閉症協会

編集人：社団法人日本自閉症協会 奈良支部

支部長&事務局：河村舟二

〒639-1005 大和郡山市矢田山町 84-10

<http://www.eonet.ne.jp/~asn/>

発達障害者支援法の成立と奈良 県の自閉症・発達障害支援セ ンター

昨年12月3日に永年の懸案であった「発達障害者支援法」が成立しました。そして2005年4月1日に法施行となりました。この成立に関わりご尽力下さった発達障害者の支援を考える議員連盟の皆様をはじめ、関係行政当局の方々、障害関係団体の方々から御礼を申し上げます。「発達障害者支援法」は、発達障害を定義し支援の必要性を明らかにするものであり、支援システムを実現させるための根拠が明確となり具体的な支援システムを構築していく上で 極めて大きな意義をもつものです。

そして、奈良県は自閉症・発達障害支援センター（以下センター）を平成18年1月1日開設すると発表しました。このことについて3月24日自閉症協会・LD・ADHD・アスカの発達障害に関する団体に対しと県福祉部障害福祉課から説明がありました。センター設立のため奈良県が670万予算化した。（600運営70準備）来年度からは2千数百万の国の補助金を活用。このセンターは県が設置者。運営は社会福祉法人宝山寺福祉事業団「仔鹿園」である。仔鹿園に決めたいきさ

つは、運営法人の福祉事業のねらいとこの事業の理念が合致したため。知事の願いもあり加速度的だった。との説明がありました。今後、○運営検討会議○運営検討会分科会（早期発見分科会・療育分科会・就労分科会等）が開催される予定であり、先のLDの会・ADHDの会・アスカの会・自閉症協会がメンバーになることになりました。

総会に参加しましょう

4月23日の社団法人日本自閉症協会奈良県支部2005年度第8回定期総会では、奈良県の自閉症児者が十分な療育・教育・福祉がうけられ、本人家族が安心して地域に暮らすためにこれから私たちがしなければならぬこと。行政等へ要望しなければならぬこと。をご審議いただくこれまでにない大切な総会となります。

小さなお子様をお持ちのご家庭では、他の障害児を抱える家庭と違い、特に出にくいことは承知していますが、年に一度の会員の総意を確かめる場にぜひとも参加をお願いします。300人は入る大きなホールですので、ご家族で子どもさんを連れて参加して下さい。

午後の講演にも残っていただけるよう、昼食のチケットを用意しています。詳しくは各役員にお尋ね下さい。

◎2005年度第8回定期総会

☆内容：午前中議案審議と学習○役員○事業（自閉症児者の自立生活支援指導者養成事業）療育キャンプ・映画会・学習会等○予算○障害者自立支援法の学習○その他。 午後：講演会

明石洋子 明石徹之

1. 日時 2005年（平成17年）4月23日（土曜日）

9：30～10：00 受付

10：00～11：30 定期総会

13：00～13：30 講演会受付

13：30～16：30 講演会

2. 場所 大和郡山市立文化会館小ホール

（やまと郡山城ホール 小ホール）

奈良県大和郡山市北郡山町211番地の3

電話074315418000

FAX074315418001

3. 第一部 総会

1号議案 2004年度（平成16年度）経過活動報告

2号議案 2004年度（平成16年度）会計決算報告承認の件

3号議案 新奈良県支部役員（幹事）（案）の承認



4号議案 2005年度(平成17年度)事業計画(案)の承認
5号議案 2005年度(平成17年度)会計予算(案)の承認
◎障害者自立支援法の学習
講師 ひまわりの家 渡辺さん

◎その他

4. 第二部 講演会

※日本自閉症協会奈良県支部主催「自閉症児者の自立生活支援者指導者養成事業」の「第1回自閉症理解講座」として、広く県民の方々も参加対象です。

演題「ありのままの子育て・自立への子育て」地域で生きるを支える」

講師 明石 洋子 氏

明石 徹之 氏

平

成17年度奈良県支部が計画していた「自閉症児者の自立生活支援指導者養成事業」について、4月1日付けで、平成17年度独立行政法人福祉医療機構助成金(高齢者・障害者福祉基金「地方分」の助成が内定したとの通知が届きました。(助成予定金額は200万円)総会の時には具体的に提案できと思いますが、現在検討中の新年度の事業計画の概要です。あくまでも現在交渉中の未定のものであります。ご意見ご希望を各都役員にお伝え下さい。

○4月23日(土曜日)

総会の日の午後に行う明石洋子さん・明石徹之さんの講演会は、この事業の第1回目として実施します。

○6月11日(土) 午前

自閉症の理解 井深允子先生(滋賀県発達障害者支援センター長) 午後 自閉症の人のコミュニケーション 山中 真喜子(NPO法人滋賀自閉症研究会代表) 峯 先生(養護学校の先生・山中さんの担任)

○7月3日(日)

高機能自閉症とアスペルガー症候群の理解と支援 服巻 智子先生(NPO法人 それいゆ) どちらも 奈良県文化会館小ホール。

○9月3日(土) 午後

自閉症・医療の立場から 門 眞一郎先

生 やまと郡山城ホール。他に 就

労支援として 志賀 利一先生、自閉症スペクトラムのご本人として 佐々木加奈さん(昨年のNHKハートフォーラム講演者)と 交渉中。

○キャンプ、ガイドヘルプ、レスパイトの実践研修も計画中です。キャンプ地や移動先について ご希望等がありましたらよろしく願います。

結成集会 へ 障害者

ツ

介護ってどういうふうにするんだろう?と疑問に思ったことはありませんか?

わからないこと、知りたいことをいっしょに考えて理解し合えたらステキだと思いませんか?

みんなですしよに考えていきましょう 福祉制度の充実を求めていく一方で、自分たちでできることを始めてしまおう?

ということ、必要な介護と人材をつなぐネットワークを設立するにあたり、結成集会とイベントをすることになりました。

そこで、たくさんの方々にご理解、ご協力をいただければと思います。

誰もが参加でき、できることから、でき

る範囲でスタートしようと考えています。

どうぞふるってご参加下さい。

日時 2005年4月23日(土)

会場 奈良市生涯学習センター3階学習室

☆結成集会

☆イベント

障害者と介護者の生活を劇化してみんなで考えよう

☆ まとめ

資料代 500円

駐車場が少ないため、なるべく公共交通機関をご利用ください。

なお障害者用駐車場は数台あります。よろしく願います。

お申し込み、お問い合わせは、こちらまで

〒630-18102

奈良県奈良市般若寺町285-12

電話/FAX 074-212319064

特定非営利活動法人 自立生活支援センターフリーダム21内(丸岡)



N H K ハートフォーラム・第4回全
国LD親の会公開シンポジウム
「発達障害のある本人・家族への支援に
向けて」

ー特別支援教育と発達障害者支援法をめ
ぐってー

日時 2005年6月26日(日) 10
時~17時30分 開場: 9時30分

会場 N H K 大阪ホール [http://](http://www.nhk-osakahall.jp/)

www.nhk-osakahall.jp/

交通 地下鉄谷町線・中央線「谷町四丁
目駅」2番・9番出口すぐ

大阪市営バス「馬場町」バス停すぐ

定員 1400名

参加費 無料

平成17年4月から「発達障害者支援法」
が施行され、教育分野でも、特別支援教
育推進事業が実施されます。これまで制
度の谷間に置かれ支援が行き届いてい
なかつたLD・ADHD・自閉症等の発達障
害のある本人・家族への支援が、いよ
よはじまりますが、具体的に何が変
わるのでしょうか?

法律は施行されますが、乳幼児から成人
期までの一貫した支援を具体化してい
くためには、現行の法令、枠組み、人材等
について大きな変革、見直しが必要であ
り、学校関係者、専門家、保護者も含め、
社会全体の特別支援教育や発達障害への
理解向上を図っていくことも重要です。

このような観点を踏まえ、それぞれの分
野での第一線の講師を迎え、第一部では、
LD・ADHD・自閉症等の発達障害につ
いての講演、第2部では、これからの施
策の方向性の解説、第3部では、LD・A
DHD・自閉症等の各支援団体から提言
を行い、行政の担当者を交えて討論を行
なう場を設けました。多くの方のご来場
をお待ちしております。

主催 全国LD親の会 N H K 厚生文化

事業団近畿支局 N H K 大阪放送局

後援 (一部申請中) 文部科学省 厚

生労働省 大阪府 大阪府 大阪府教委

滋賀県教委 京都府教委 兵庫県教委

奈良県教委 和歌山県教委 大阪市教

委 京都市教委 神戸市教委 認定特定

非営利活動法人パイロットインターナ

ショナル日本ディストリクト基金Ⅱ認定

N P O 法人P I J D 基金 日本LD学会

日本障害者協議会 日本障害者リハビリ

テーション協会 J D D N E T 準備会 社

団法人日本自閉症協会 N P O 法人えじ

そんくらぶ N P O 法人アスペ・エルデ

の会 N P O 法人エッジ 朝日新聞厚生

文化事業団 産経新聞厚生文化事業団

毎日新聞大阪社会事業団 読売愛と光の

事業団大阪支部

第一部 講演

10:05~11:05 基調講演「軽度発達障害

児の教育を考えるー現状と今後の方向

性」

竹田 契一(大阪教育大学名誉教授)

11:05~11:55 特別講演Ⅰ「ADHDの

理解と対応」

田中 康雄(北海道大学大学院教育学研

究科臨床講座教授)

ー昼休憩ー

13:00~13:50 特別講演Ⅱ「高機能自閉

症スペクトラム(高機能自閉症・アスペ

ルガー症候群)の理解と対応」

内山 登紀夫(大妻女子大学 人間関係

学部助教授)

第2部 解説

13:50~14:30 解説Ⅰ「発達障害への

国の施策の現状と今後の方向ー文部科学

省」柘植 雅義(文部科学省 特別支援

教育調査官)

14:30~15:10 解説Ⅱ「発達障害への国

の施策の現状と今後の方向ー厚生労働

省」大塚 晃(厚生労働省 障害福祉

専門官)

ー休 憩ー

第3部 シンポジウム

15:25~17:25 「発達障害のある本人・

家族への支援に向けて」

シンポジスト

内藤 孝子(全国LD親の会 副会長)

高山 恵子(N P O 法人えじそんくらぶ

代表)

氏田 照子(社団法人日本自閉症協会

副会長)

辻井 正次(N P O 法人アスペ・エルデ

の会 代表)

指定討論 柘植 雅義(文部科学省

特別支援教育調査官)

大塚 晃(厚生労働省 障害福祉専門

官)

司 会 山岡 修(全国LD親の会会長)

★一般参加は、「当日受付」のみで、事

前受付、予約は不要。定員になり次第

入場受付を終了させていただきます。

★当日、好評配布中の「LD・ADHD・

高機能自閉症とは？」(全国LD親の会編)

を先着1200名に無料配布します。

★子どもの保育はありません。

★車いすをご利用の方は事前にお申し出

ください。

〒5408501 大阪市中央区大手前4ー

1ー20 N H K 大阪放送局内N H K 厚生

文化事業団近畿支局 「ハートフォーラ

ム」係

TEL: 06-6937-13412

FAX: 06-6941-0830

詳しくは以下をご覧ください。

[http://www.normanet.ne.jp/~](http://www.normanet.ne.jp/~zenkokld/sinpo2005.htm)

[zenkokld/sinpo2005.htm](http://www.normanet.ne.jp/~zenkokld/sinpo2005.htm)

NHKハート・フォーラム ネットワークで考える 特別支援教育

【開催日】 平成17年6月19日(日)

【会場】 和歌山県民文化会館 小ホール
和歌山市小松原通1丁目1番地

TEL 073-436-1133

FAX 073-436-1135

プログラム

9:30~10:00 受付

10:00~10:05 挨拶 NHK

厚生文化事業団近畿支局長 高橋

10:05~12:00

演題:「未定」

講師:田中 康雄 氏(北海道大学大学院教育学研究科教授・児童精神科医師)

12:00~13:00 休憩

13:00~14:30 講演:「個別

の教育支援計画の実践」(仮題)

講師:西川 公司 氏(筑波大学附属久

里浜養護学校校長)

14:30~14:45 休憩

14:45~15:45 シンポジウム

テーマ「今後の特別支援教育の展開」

発言者:三反田和人 氏(和歌山県立は

まゆう養護学校校長)

米川 徳昭 氏(ふたば福祉会常務理事・
ふたば作業所所長)

未定 氏(和歌山障害者職業セン
ター主任カウンセラー)

助言者:田中 康雄 氏(北海道大学大
学院教育学研究科教授)

司会:宮本 聡 氏(南紀福祉セン
ター附属病院児童精神科医師)

15:45~16:00 休憩

16:00~16:30 質疑応答

16:30 終了

【定員】 400名(申込先着順)

【参加費】 無料

【申込方法】 裏面の申込書に必要事項を
ご記入のうえFAXでお申し込み下さ
い。

FAX 073-423-1112

【問合せ先】 社団法人日本自閉症協会和
歌山県支部事務局 石橋 智恵子

TEL/FAX 073-472-
9881

【主催】 NHK厚生文化事業団近畿支
局、NHK和歌山放送局
社団法人日本自閉症協会近畿ブロック
(大阪府支部・京都府支部・兵庫県支部・
奈良県支部・滋賀県支部・和歌山県支部)

【後援】 申請中

和歌山県・和歌山県教育委員会・和歌山
県社会福祉協議会・和歌山市・和歌山市
教育委員会

和歌山県手をつなぐ育成会・和歌山県障
害児者父母の会

ー和歌山県民文化会館へのアクセスー

○南海電鉄「和歌山市駅」より

・徒歩 約20分・タクシー 約5分

・バス 約10分(9・10番のりば)「県

庁前」バス停下車(バス停より約300

m・徒歩約4分)

○JR「和歌山駅」より

・徒歩 約35分・タクシー 約10分

・バス 約10分(2番のりば)「県庁前」

バス停下車(バス停より約300m・徒

歩約4分)

○阪和自動車道 和歌山インターより

約4km (会館横有料駐車場完備)

和歌山インター出口 和歌山市内方面

直進約15分

NHKハート・フォーラム 参加申込書
申込先FAX番号073-423-112

・個人の場合

・ふりがな・氏名・所属・住所・電話

・FAX・メールアドレス

・団体の場合

・ふりがな・団体名・申込人数名

・申込責任者名・メールアドレス

・所在地・電話・FAX

・参加者名

* 参加定員を超えた場合は、折り返し
連絡を入れさせていただきます。

祭

5月15日(日) 奈良教育大学で開催さ
れるつながり祭に今年も参加します。

模擬店で花苗を販売しますので、当日
お手伝いをしてくださる方を募集して
います。

お手伝いしてくださる方は、療育部役
員まで連絡下さい。

総会・講演会の4月23日(土)受付にて、
つながり祭協力券(1枚500円)を販
売しますので、ご協力よろしくお願
いします。



自閉症・発達障害支援センターについて質問状を提出

平成17年3月17日

奈良県知事 柿本善也 様

奈良県福祉部障害福祉課長 様

社団法人日本自閉症協会奈良県支部

支部長 河村 舟

二

自閉症・発達障害支援センターについて（ご質問）

拝啓、時下益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は、障害者福祉のためご尽力を賜り厚くお礼申し上げます。また、今般、「自閉症・発達障害支援センター」（以下同支援センターと云う）運営事業として平成18年1月同支援センターの設立に向けた計画が今年度より開始される運びとなりましたことは、私どもとしては大変嬉しく、感謝するとともに、重ねてお礼申し上げます。

さて、同支援センターに要求される役割は、自閉症・発達障害（児）者を対象とした相談、療育、就労及び研修等を実施することになっていきます。これは、自閉症・発達障害（児）者当事者

及びその家族と当事者を取り巻く社会全般に関係し、当事者の日常生活のあらゆる側面に係る内容です。従って、同支援センターの円滑な運営には、県下の関係機関（市町村行政機関、福祉施設、医療機関、保健所、福祉・労働機関、教育機関、研究機関、警察、弁護士協会）、障害者団体、保護者会等との緊密な連携と、自閉症を正しく理解し、経験豊かな専門家による対応が必要不可欠になります。今年度より、同支援センターのあるべき姿について、有識者による検討協議会が開始される計画になっていますが、我々、同支援センターの利用者として、同支援センターに対する期待は非常に大きいものがあります。

先行する他府県の事例参考に良い点は積極的に取り入れ、最善のセンターとなるよう望む次第です。そのためには、我々、自閉症（児）者の親として、また、自閉症に深い理解ある協力者として、これまで培ってきた様々な知識や経験をベースに、より良い実効性のあるセンターの構築に向けて積極的に参画させていただく所存でございます。つきましては、上記のことを踏まえ、同支援センターの設立検討委員会の開催に当たり下記のとおり、質問状を提出させていただきますので、ご回答の

程よろしくお願いいたします。

記

1. 同支援センターの構想はどのようなものを想定されているのか

2. 同支援センターの設置場所は「仔鹿園」となっていますが、運営は、どのような形となるのか

3. 同支援センターが実施する業務の内容は、非常に広範囲にわたる内容となるため、県下のあらゆる関係機関との連携が必要になるが、関係機関とのネットワーク作りはどのように考えているのか。また、実効性のあるネットワークとしてどのような機能、制度を想定しているのか

4. 同支援センターの職員には、自閉症についての専門的な知識が求められることは勿論ですが、豊富な経験と強いリーダーシップが必要不可欠になるが、職員の構成等（体制）はどのようなものを想定されているのか

5. 同支援センターの業務内容として具体的に必要な事項としては、どのような内容を想定しているか（我々が具

体的に必要と考えている内容は別紙に示す通り）

6. 同支援センターの運営に関し、実行的な内容の内容を担保するものとして利用者を含む運営協議会が必要になると思われるが運営協議会なるものは検討事項にあるのか

7. 同支援センターの業務内容として、地域社会、関係機関に対して自閉症についての正しい理解を促すための啓蒙・研修業務は大きなウエイトを占めると考えるがどのような形でどのようなサイクルで行うことを想定しているのか

以上

編集後記

肌寒い4月かなと思っていたのが急に暖かくなり桜の花があつという間に満開になり、桜吹雪の舞を見せながら散っていききました。

毎日報道されるニュースを見て、心温まるニュースはほとんどなく、こどもたちの悲しいニュースばかりです。

本当にこの国はどうなったのでしょうか。